

修士論文 2012 年度（平成 24 年度）

大都市港湾地区における 開発コンセプトと水辺空間デザインの類型 についての研究

論文要旨

1970 年代以降、世界各国の港湾地区では港湾機能が衰退化し、港湾地区の遊休地化が顕著にみられるようになった。近年では、遊休地化した港湾地区のポテンシャルが見直され、再開発がすすめられているところも少なくない。江東区新木場地区も衰退化している港湾地区と同様の課題を抱えている。遊休地化こそしていないものの、現在の土地利用や空間デザインでは地区のポテンシャルが最大限に活かされているとは言い難い。新木場再開発にむけて動きがあるものの、開発コンセプトと水辺空間デザインなどの具体的な話には至っていない。今後、開発コンセプトと水辺空間デザインの関係が課題となってくるのは明白で、円滑な議論を行うためにも相互作用を理解しなくてはならない。本論文では世界の先進的な港湾地区再開発を分析し、開発コンセプトと水辺空間デザインの関係について分析する。ハーフェンシティ地区・(ハンブルグ)、アイブルグ地区・(アムステルダム)、アムステルダム再開発地区、コップファンザイド地区（ロッテルダム）の 4 地区を比較対象地区とする。

開発コンセプトは「水害対策」・「土地利用」・「経済的利益」・「環境保全」の観点から、水辺空間デザインは「空間の快適性」と「水辺空間構成要素」の比較分析をする。開発コンセプトの比較に留まらず水辺空間デザインの比較また、開発コンセプトと水辺空間デザインの関係性を分析している点で本論文は新規性がある。

空間快適性の指標である D/H を用いた分析では、開発コンセプトの内容に関わらず、「開放的な印象」・「適度のバランス感」・「谷間の印象」の全 3 種類が均等に地区を代表する空間に用いられていることが分かった。

水辺空間構成要素の分析では、開発コンセプトによって水辺空間デザインを分類することができた。開発コンセプトの内容によって水辺空間デザインは限定され、地区として統一性のある空間を生んでいるという分析結果がでた。

新木場再開発にむけ、開発コンセプトと水辺空間デザインを検討する際は、開発コンセプトの内容に関わらず、D/H 全 3 種類の印象を取り入れ、開発コンセプトをもとに統一性のある水辺空間の創出を検討すべきといえる。

キーワード 1. 大都市港湾地区 2. 開発コンセプト
3. 水辺空間デザイン 4. 再開発 5. 空間の構成

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 水上梨々子